「欲しいものは何ですか」

古今東西、正直な人や、誠実な人や、謙虚な人が、しっかりと報われることを伝える昔話があります。日本であれば、舌切り雀のお話なんて、そうですね。親切なお爺さんに対して、スズメが恩返しをするという。しかも恩返しの時には、小さなつづらか、大きなつづらか、お爺さんに選択を委ね、誠実で謙虚なお爺さんは、「自分は年寄りだから小さなつづらで十分」と言って、小さなつづらを持ち帰ったならば、金銀財宝が詰まっていた、という。ちなみに、大きなつづらには、虫や蛇や妖怪なんか詰まっていたとされています。小さなつづらを選んで正解ということですね。イソップ寓話に数えられる金の斧銀の斧のお話も、似たような構造をもった昔話です。ちなみに、イソップ寓話の成立年代は、紀元前 6 世紀ごろと言われているので、聖書に匹敵する古さを有する昔話ですね。誤って鉄の斧を川に落としてしまった、木こりの元に、川の神様が現れて、「あなたの落したのは、この金の斧ですか？」と聞きました。木こりは正直に「違います」と答えました。続いて銀の斧について聞かれた時も、同様に違うと答えたことで、その正直さに感心した川の神様によって、木こりは、自分の鉄の斧のみならず、金と銀の斧も受け取ることになった、と。ちなみに、このお話でも、強欲な判断した場合には、相応のペナルティが課せられるという筋書きになっています。

このように、色々な昔話に、正直な人、誠実な人、謙虚な人が得をする物語が存在しています。「正直者が馬鹿を見る」という、世知辛い現実社会にあって、こういう古典的な道德物語は、素直に心が落ち着くと言いますか、嬉しく、温かな気持ちになります。

度々、この説教や、聖書研究の時に、私が言っていることですが、やっぱり、人間は理想を求め

ていないといけません。世知辛い現実から目を逸らさないことは当たり前で、しっかり現状把握しながら、でも、あるべき姿、目指すべき水準、理想とされる世界を思い描いていないとダメです。じゃないと、現実は、今よりもさらに落ち込んでいきます。甘い考え、理想論、夢物語。大いに結構です。そういう上昇志向を忘れないことで、私たちの現実社会は、現状維持されているのであり、私たちが、それを放棄したら、途端に、揚力を失った世界は墜落してしまうでしょう。冷たい合理主義や、打算的発想では保てない豊かさがあることを忘れないでいたいと思います。

そんなことを思いつつ、今日の聖書箇所です。ユダヤ史上最も知恵に満たされた王様であると言われた、ソロモンのお話です。最初に断っておくと、今日の聖書箇所が含まれている、この歴代誌という書物が成立したのは、バビロン捕囚の後であると言われていています。ソロモンの活躍した時代は、バビロン捕囚のずっと前、統一イスラエル国家が、最盛期を迎えた頃のことです。だから、リアルタイムで書かれた歴史の報告書ではないということです。バビロン捕囚とは、ユダヤの歴史における最大級の悲劇であり、その後の歴史とは、ようするに復興と再生の歩みでした。つまり、バビロン捕囚後に書かれた歴代誌は、「ユダヤ・イスラエルを再び元気にしないとイケない」という明確な目的を持っていたということです。だから、歴代誌に書かれている報告内容は、ところどころ、ちょっと差し引いて読まないといけない、という視点は必要です。

「ソロモンという優秀な王様がいたんだよ」という今回のお話も、歴史に忠実なお話と言うよりも、そんな素晴らしい王様がいたことを心の支えにして、再び立ち上がろうという、励ましの目的があったんだと読むべきでしょう。その辺りの考え方は、過去の偉人を引き合いに出して、現在の有様の権威付けをしたり、自信を取り戻させたりする発想と似ているかと思います。

しかし、その発想によって、ソロモンという立派な王様の尊厳が損なわれるわけではありません。むしろ、私たちが信仰をしっかりと持って、未来に向けて正しい選択をしていくための、貴重なメ

ッセージを届けてくれています。現実的な選択は、確かに富や財宝や名誉や宿敵の命を獲ることかも知れない。世知辛い日常にあって、そんな甘いこと言っていないで、弱肉強食の姿勢で臨むことが成功と幸福の最短ルートなのかも知れない。でも、私たち一人一人が、この世界の平和のために、優しさのために、隣人愛のために、自分の利益ではなく、敵の滅亡ではなく、知恵と知識を求めることができるなら。その時、またちょっとだけ、この世界は変わることができるんじゃないかと思っています。「情けは人の為ならず」。良い行いは、きっと自分を含めた多くの人を幸せにすると知って。

「受けるよりは与える方が幸いである」。与えることが引き起こす、目先の利益を大きく超えた幸せの実現があると信じてみる。キリスト教の信徒だからこそ、自分を超えたところで働かれる神様とイエス様のことを知っている私たちだからこそ、この世界の揚力が失われないように、この世界が墜落してしまわないように、しっかり信仰を持って、未来へ向けて正しい選択をしていきたいと思っています。

「今だけ、金だけ、自分だけ」という超絶短期的、短絡的な思考が支持を得て行く世の中です。もちろん、そうさせる力学があり、それを回避できない理由があることは弁えた上で、なお、それでも、善良な選択を諦めない。時々、諦めて流されても、軌道修正を試みる。週に1度は、御言葉を聴いて、あるべき、理想の世界を夢に描いてみる。さして劇的な効果はなくとも、その小さな信仰の歩みが、祝福されて、大きな御業へと変えられていくと信じてみる。

幸いなことに、その信じる道には、石や蛇が置かれているのではありません。12節のところ「あなたには知恵と識見が授けられる。またわたしは富と財宝、名誉もあなたに与える」という。神様は、ちゃんと分かってくれてるじゃないですか。良いものを欲しがる人に、幸せを求める人に、石や蛇を与えたりしませんって。今日の聖書箇所をさらに感動的に受け止めるために、新約聖書からも一か所引用したいと思います。「なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つの

か、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言うて、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」。マタイによる福音書、山上の説教で語られているイエス様の有名な教えですね。ここにもソロモンの名前が出て来るのは、今日の聖書箇所との関連を暗示しているのかも知れません。

神様のことを、隣人のことを思ってみる心の余裕を忘れないこと。もちろん、自分のことで手一杯の時は、無理しちゃいけません。私たちは、良き信仰者であることを求められると同時に、限界のある被造物であることを認める謙虚さも必要です。でも、一人ひとりが、自分を越えたところの、良き働き、理想の世界、目指したい社会を思い描けるなら、多分、悪い方向には行かないでしょうね。

私たちが、良き方向性へと舵を切る、明るい未来へと軌道を整える、一人ひとりでありたいと願います。そして、そんな私たちの小さな努力や善行を見つけて、たくさんの恵みと祝福を注いでくださるように、神様にお祈りしたいと思います。平和の使者として、キリストの肢として、私たちを祝福で満たし、充実した幸せな日々を守り導いてくださいますように。最後にお祈りを致します。

神様。今日も、私たちをこの礼拝堂に招き、ともにあなたの賛美するひと時に与らせてくださり、感謝致します。いにしえの王達が、あなたの御心に従い、相応しい道を選び、正しい選択を重ねてきたように、今を生きる私たちも、あなたの御心に聞き、祈りつつ、あなたと隣人のために良き選びを為すことができますように。お守り、お導きください。また、そのようにして良きキリスト者であろうとする、私たち一人一人を大きな祝福で満たし、日々の幸いと喜びを備えていてください。あなたと共に歩む人生に感謝し、心からの賛美を捧げることができますように。

このお祈りを、我らの主イエス・キリストのお名前によって、あなたの御前にお捧げ致します。

2月誕生者の祝福祈禱

詩編 121 編 5～8 節

「主はあなたを見守る方／あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。昼、太陽はあなたを撃つことがなく／夜、月もあなたを撃つことがない。主がすべての災いを遠ざけて／あなたを見守り／あなたの魂を見守ってくださるように。あなたの出で立つのも帰るのも／主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。」

神様。私たちは、2月最初の聖日に、あなたから尊い命を与えられ、私たちの友となってくださった方々を憶えて祈りを合わせています。あなたは、私たちが母の胎内にいる時から、私たちのことを見つけ、今に至るまで導いてくださいました。この2月生まれの方々も、それぞれの人生において、あなたによって召し出され、あなたによって導かれてきたことを受け入れ、今あなたの御前にあって信仰の日々を過ごしています。どうか、あなたを見上げ、慕うことをやめないこの方々を豊かな祝福で満たしてください。限りない導きと支えをお与えください。また、人は一人では生きてはゆけません。この方々の周りにいらっしゃる掛け替えのないご家族、ご友人の上にもあなたの恵みが注がれますように。親しき人の輪が、あなたによって祝福されますようにお願い致します。

この祈り、尊き主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。